



# 6061 美山町の村おこしにおける共同組織・タナセンの果たす役割の検証(地域づくり:地域資源活用, 農村計画, 2012年度大会(東海)学術講演会・建築デザイン発表会)

渡邊, 千央実

山崎, 寿一

山口, 秀文

---

## (Citation)

学術講演梗概集, 2012(農村計画):129-130

## (Issue Date)

2012-09-12

## (Resource Type)

journal article

## (Version)

Version of Record

## (Rights)

本文データは学協会の許諾に基づきCiNiiから複製したものである

## (URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90003077>



## 美山町の村おこしにおける 共同組織・タナセンの果たす役割の検証

正会員 ○渡邊 千央実\*  
正会員 山崎 寿一\*\*  
正会員 山口 秀文\*\*\*

村おこし                      共同                      地域経営  
コミュニティ              中山間地域

### 1 はじめに

京都府南丹市美山町の村おこしは、その時代に抱える課題に柔軟に対応し発展していった。その村おこしの中でも住民出資により立ち上げられた共同組織は様々な役割を担ってきた。共同組織の概要を



図1：美山町の位置

整理した上で、美山町の村おこしにおいて共同組織がどのような役割を担っているのかを明らかにしたい。本研究では、美山町内に4つ存在する住民の共同出資で設立された組織を「共同組織」と定義する。唐崎らの研究<sup>1)</sup>では本研究で扱う(有)タナセンや(株)ふらっと美山を「共同店」としていたが「商店」という性格だけではなく、農事や福祉という「店」ではなくることのできない部門も有していることから「共同組織」と定義した。

### 2 研究対象

美山町は村おこしと称して、農林業の衰退や人口減少、少子高齢化などの課題に対して、先進的に様々な取り組みを行ってきた。第1期で「農林業の振興」、第2期で「都市との交流」、第3期では「新産業おこし」を主たるテーマとし村おこしが進められてきた。「住民主導の町づくり」を目指した第4期において、農協支所の廃止に対する危機感から住民たちの出資で共同組織が設立された。そのなかでも立ち上げの先駆けとなった「(有)タナセン(以下、タナセン)」を主たる研究対象とした。

### 3 研究方法

タナセンの利用実態を明らかにするため1日お店に張り付き、利用者数や利用時間帯、会話の有無や、滞在時間などを調査した。その他、タナセン3代目社長、タナセンの従業員、タナセンの利用者、鶴ヶ丘地域振興会会長、美山町商工会会長、南丹市役所美山支所地域総務課地域振興係係長、農協美山支所所長、地域の商店(D商店)など様々な角度の方々にヒアリングを行うことでタナセンを立体的に理解するよう努めた。

### 4-1 タナセンの概要

H10年に農協の鶴ヶ丘支所が廃止となり、生活の危機を感じた周辺地区住民は共同で出資金を出し合い、H11年に農協跡地を活用しタナセンは創設された。コンセプトは「コミュニティビジネス」。購買部だけでなく、農事部やあまり例のない福祉部を有している。「自分たちだけでなく周辺にある商店や酒屋、八百屋など小さくても特徴のあるお店が存在することで地域は成り立っている。」と創設にも関わる3代目社長の柿迫義昭さんが語るように、周辺の商店や住民と一緒に地域を盛り上げていこうということを念頭に事業を進めている。

### 4-2 タナセンの構成

タナセンは購買部、農事部、福祉部で構成されている。

表1：タナセンの内訳

| 部門 | 内容                                            |
|----|-----------------------------------------------|
| 購買 | 主として物品の販売。野菜などの直売所。配達サービス。農協の購買事業を残す形で運営。(図2) |
| 農事 | 個人では管理しきれない農地の管理や作業の補助。                       |
| 福祉 | 高齢者対象の除雪や除草、送迎。「よっこらしょ」という福祉施設の運営管理。(図3)      |



図2：柔軟な対応



図3：「よっこらしょ」

### 4-3 タナセン(購買部)の利用実態

一日で77人+αの利用者がいた。

#### (1) 滞在時間の長さ・頻度

一日に数回訪れる人もおり、毎日訪れる人もいた。特筆すべきは滞在時間の長さである。買い物が目的の人ももちろんいるため一概にはいえないが、品物を選び清算する正味の時間を除いて平均で5分ほどは店内や軒先で世間話をしていた。20分は



図4：店内の様子

ど店内で店員や他の客と世間話をしている人もいた。その他、店内のイスに腰掛けて話している人が多くみられた。

## (2)交流

野菜の生産者とお客さんが商品を手にとりそれぞれ意見を交換していた。生産者側にはさらなるやる気と改善点が消費者側には商品に対する安心が生まれているという。また、若い男性が店員に干し柿の作り方を聞くなど商品を介しての交流も生まれていた。



図5：軒先での会話

## (3)買い物の仕方

軒先に並べられている野菜を選んで、店内に入り、まず清算の台に野菜と荷物を置いてから店内の商品を見て回るという人が多くみられた。これは、店員とお客との信頼関係があるからこそ成り立っているものである。

表2：時間帯別来客人(\*：別調査実施により不計測)

| 時  | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 人数 | 7 | 11 | 9  | 7  | *  | *  | 11 | 13 | 12 |

### 4-4 タナセンに対する評価(表3)

表3にまとめたように大方、タナセンの活動・存在を肯定する意見が多い。特に鶴ヶ丘地域振興会とは繋がりも濃く、振興会で話し合っただけで決まったことをタナセンが実行する側面もあるため評価は高かった。しかし、商工会会長はタナセンに限らず少なからず地域の個人商店の経営を圧迫している共同組織の存在を手放しで肯定できないと考えている。お金の面で行政や住民・国の補助金などに依存している組織が、個人で細々とがんばっている商店の経営を圧迫することに対して否定的な考えを持つ人があることは避け難い事実であり、今後の課題でもある。経営が圧迫され閉店した店舗もあるため、D商店の意見だけを鵜呑みにはできないが、今回のヒアリングにおいては大方の所属の人がタナセンとともにお互いのよさを認めあってがんばっていききたいと考えていると判断できる。

## 5 まとめ

共同組織・タナセンは地域の中でも住民の生活のためだけではなく、コミュニケーションの場としても重要な存在であることがわかった。また、農事部や福祉部があることにより地域振興会や行政が議決したことを請け負うことができるため、美山町の村おこしにおいては即戦力としてもなくてはならない存在である。共同組織タナセンは利益よりも地域の住民のために取り組みを行っている。共同出資という共通の認識が経営者と利用者の相

互の歩み寄りを実現し、地域経営においても大きな役割を果たしている(図6)

表3：タナセンに対する各自の評価

| 立場                       | 評価     | コメント                                                                             |
|--------------------------|--------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 鶴ヶ丘地域振興会会長               | ◎      | 地域振興会でのイベントなどの決定事項をタナセンに委託。地域振興会だけでは議論はできても実践ができない。                              |
| 南丹市商工会会長                 | △      | いろいろ頑張っていると思う。しかし、自分たちは行政から補助金などをうけているのに、細々とでも個人でがんばって経営しているお店を追い込む様なことはしてほしくない。 |
| 農協美山支店支店長                | ○      | 住民のためになっていると思うので、よいと思う。                                                          |
| 南丹市役所美山支所<br>地域総務課地域振興係長 | ○      | (4つ全てに対して)それぞれ、個性や特色を出して運営していて、住民のためになっていると思う。なくてはならない存在。                        |
| D商店<br>(タナセンから約100m圏)    | ○      | タナセンとは売っている品物が違う。50年の歴史がある。昔からのお客さんがいる。田舎の人は義理堅いから買えるものはこっちで買ってくれる。              |
| 住民(配達先)<br>車で約10分        | △<br>○ | 車が無いといけな。普段はa-coopの配達ですませる。肥料はタナセンに配達してもらおう。                                     |
| 住民(野菜の生産者)               | ◎      | 野菜を売ることができるのは生きがい。タナセンでお客や他の生産者の方と話すことも楽しい。                                      |
| 住民(客)                    | ○      | 野菜も安くおいしいし、なんでもそろっている。お友達と会って話せるのも嬉しい。                                           |

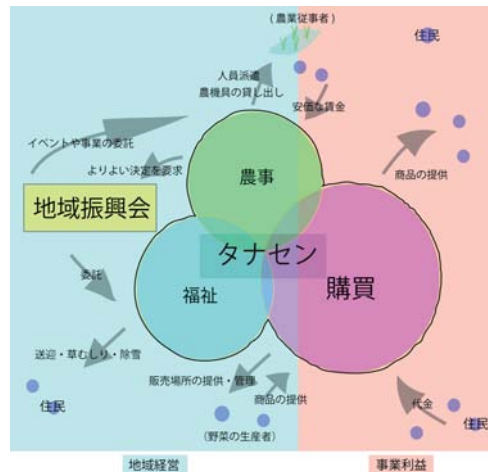


図6：タナセンのダイアグラム

## 参考文献

1) 唐崎卓也:農村地域の共同店にみられる地域協働に関する研究、日本建築学会計画系論文集 第76巻 第664号, pp1121-1128, 2011.06

\*神戸大学大学院 博士課程前期課程

\*\*神戸大学大学院 教授・博士(工博)

\*\*\*神戸大学大学院 助教・博士(工博)

\*\*Graduate School of Kobe University

\*\*Prof., Kobe University, Dr.Eng.

\*\*\*Assistant Prof., Kobe University, Dr.Eng.